

第 11 回関東 MIS_t 研究会 開催報告

2018 年 9 月 1 日（土）に紀尾井カンファレンスにて第 11 回関東 MIS_t 研究会を開催いたしました。

各地で会合がある中、140 名の方々にご参加頂き、盛会のもとに無事終了しましたのでご報告いたします。

第 11 回を迎えた今回のテーマは、「MIS_t 再考」とさせて頂きました。MIS_t に取り入れるべき新しい発想・テクノロジーは何か、また、「最高」の手技になるための MIS_t の魅力・課題について、discussion しました。

一般演題は、PPS・LIF を中心に 10 演題のご発表を頂きました。発表のたびに質疑が相次ぎ、「これぞ研究会」と言えるような風通しの良い討議ができました。

MIS_t technical lecture では、MIS_t の更なる発展につながる手術手技のお話をいただきました。春陽会中央病院の寺山星先生からは、まさに職人技ともいえる PPS の 1mm/1 度のこだわりの話を、福岡青洲会病院の酒井翼先生からは、脊椎制動術の手術成績と可能性の話を、東部地域病院の嶋村佳雄先生からは、less radiation spine surgery にむけた患者適合格型 CBT ガイドの有用性の話を、そして亀岡市立病院の成田渉先生からは、側臥位 PPS のコツとピットフォールのお話をいただきました。

特別講演 1 では北里大学整形外科准教授の井上玄先生より、「結果から再考する脊椎手術低侵襲化の試み」のお話を頂きました。ご自身の臨床成績の解明とともに、PTH 使用の有用性、手術治療における注意すべき点について、大変わかり易くご講演を頂きました。

特別講演 2 では我汝会えにわ病院整形外科の安倍雄一郎先生より「コンピュータビジョンを応用した脊椎手術の基礎研究と展望」についてお話いただきました。脊椎バイオメカニクスの研究結果から、術式選択の根拠となる指針や現在の課題・今後の展望についてご講演いただきました。

Best paper award には参宮橋脊椎外科病院の大堀靖夫先生の「圧迫骨折後の後弯変形に対して前方再建+PPS を行い、骨癒合後抜釘した症例」が選出されました。また Best discussor award には終始適切で本質をついたコメントを頂いた、えにわ病院整形外科の安倍雄一郎先生が選出されました。

また、同時開催されましたナースコースは満員御礼・当日キャンセル待ちが出る盛況ぶりでした。医師および手術室看護師の講師の熱い指導のもと、PPS と LIF の手技を体験して

頂きました。

第11回となる本研究会を成功裏に終えることができたのも、多くの先生方や共催いただいた旭化成株式会社、そして協賛して頂いた企業の皆様のお力添えのおかげと存じます。またご多忙の中、御参加・御発表いただいた皆様には、改めましてこの場を借りて深く感謝申し上げます。

次回、第12回関東 MIST 研究会は平成31年3月9日(土)に慶應義塾大学整形外科の岡田 英次朗会長のもと開催される予定です。会員の皆様におかれましては、是非ご参加頂きたいと思っております。

第11回関東 MIST 研究会 会長
独立行政法人国立病院機構 村山医療センター
整形外科
松川 啓太郎

